

Briefing Transcription

|| 2026年5月期第2四半期決算説明会文字起こし ||

株式会社 Gunosy

6047 東証プライム市場

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら >>>](#)

2026年1月21日(水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

■ 目次

■決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント	01
■出演者	02
■決算説明	03

株式会社 Gunosy | 2026 年 1 月 21 日 (水)
6047 東証プライム市場

■ 決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント

- ・大きな変化点を迎えている。前 2025 年 5 月期は Gunosy の黒字化、ゲームエイトの拡大で業績予想を上方修正し、安定的な利益創出の確度が高まったことによる初配当も実施した。
- ・足もとにおいては、「スマホ競争促進法」の施行により新たに開放されるアプリ外決済など 2 兆円超の巨大市場への参入に加え、戦略的 M&A の初手も利益貢献が見込まれており、インドのスタートアップとして希少な銀行ライセンスを持つ投資先 slice も好調に推移している一方、Gunosy がニュースアブリメディア市場全体のアクティブユーザー数が軟調に推移している影響を受けて 2026 年 3 月期の業績予想を下方修正、事業環境のボラティリティの中でダウンサイドケースでの推移となった。
- ・ただし、Gunosy も含むコアキャッシュ領域については、下期のコストコントロールにより利益をさらに創出、修正した利益を下限に上積みを目指す。slice の成長が極めて順調なことを背景に、DOE1% 相当の特別配当を追加した増配も発表した。
- ・コアキャッシュ領域から利益創出が移る端境期での下方修正であり、2027 年 5 月期の EBITDA900 百万円の方針は不变となっている。キャッシュ創出力と成長性を軸とした新事業ポートフォリオの再編により、時価総額 1,000 億円を中長期の方針として成長を目指していることも不变となる。
- ・評価のポイントは、2027 年 5 月期の業績、slice の評価を含んだバランスシートの状況ということになる。ネットキャッシュ 50 億円強と slice を含む投資有価証券 50 億円強の合計は 100 億円を上回る。同社の株式保有割合が潜在株式調整後比率ベースで 12.65% 超と外部筆頭株主の地位にある slice は既に 7.3 億円の純利益を計上、利益の成長スピードも加速しており、顧客の純増数はインド民営銀行最大規模の HDFC と同等以上の規模で推移している。対して、同社の時価総額は 132 億円だ。配当利回りも 4% を上回っており、株価はダウンサイドリスクが低い状況で、上値を期待することができる。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

■ 出演者

株式会社 Gunosy
代表取締役社長

西尾 健太郎様

株式会社 Gunosy
取締役 最高執行責任者

沢村 俊介様

株式会社 Gunosy
取締役 最高財務責任者

岩瀬 辰幸様

株式会社 Gunosy
グループ執行役員 最高投資責任者 (CIO)

間庭 祐喜様

司会者

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

■ 決算説明



▲司会者

それでは、本日の進行についてご案内いたします。

西尾社長より 2026 年 5 月期第 2 四半期の決算内容についてご説明をさせていただきます。

それでは、始めさせていただきます。西尾社長、よろしくお願ひいたします。

■ Gunosy 西尾様

代表取締役社長の西尾でございます。本日はお忙しい中、株式会社 Gunosy の 2026 年 5 月期第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日は第 2 四半期決算として、上期の総括に加え、ポートフォリオ別の詳細、ならびに修正後の計画についてご説明いたします。



こちらが全体のハイライトです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

26/5期Q2 実績ハイライト			Gunosy
26/5期Q2 実績			
売上高	3,279 百万円	計画進捗率(週期)	YoY 106.6%
営業利益	70 百万円	9.1%	△295 百万円
EBITDA	141 百万円	15.3%	△226 百万円

サマリー

- 投資先sliceは極めて順調に成長、成長性と収益性を両立した新たなフェーズへ**
急成長に伴いSは約1,000億円規模に到達し、FY26半期(25年9月-9月)は純利益ベース*で7.3億円の黒字達成 (P5参照)
預貸料はFY25年9月期で約2.3倍成長、9月のクレジットカードサービスのローン以降、AUMの伸びも加速
- 中期財務目標のFY27 EBITDAの900百万円達成ストーリーは不变だが、**
当期の実績では、事業環境のボラティリティの中、ダウンサイドケースでの推移となる見込み
結果として、当期の純利益ベースを250百万円に下方修正
- FY26下半期は、Gホー**
ルディングスの成長が極めて順調なことを背景に、FY27の純利益ベースを9億円に上方修正
FY26下半期は、コア事業の成長が順調な一方で、Gホールディングスのアセットのアクティビティ数が軟調に推移している影響を受ける
Gホー
ルディングスの成長は、コア事業の成長と並行して、Gホールディングスのアセットのアクティビティ数が軟調に推移している影響を受ける
FY26下半期は、コア事業の成長と並行して、Gホールディングスのアセットのアクティビティ数が軟調に推移している影響を受ける
- SC事業は「スマホ競争促進法」の施行に合わせ、下期以降の本格的な拡大を目指す** (P37参照)
- 期初配当予想としていたDOE 4%の株主還元に加え、**
sliceの成長が極めて順調なことを背景に、DOE 1%相当の特別配当を追加し増配を決議 (P12参照)

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 4

結論から申し上げますと、投資先である slice の飛躍的な成長と当社業績については、十分な進捗を示していない状況となりました。

数値につきましては、売上高が 32 億 7,900 万円、営業利益が 7,000 万円、EBITDA が 1 億 4,000 万円となっております。

それでは、ハイライトについて、下段のサマリーに沿ってご説明いたします。

まず、投資先である slice についてです。こちらは極めて順調に成長しております。この急成長を背景に、バランスシートは約 1,000 億円規模に到達しており、2026 年上期には純利益ベースで 7.3 億円の黒字を達成いたしました。銀行事業における預金残高も、前年同期比で約 2.5 倍という非常に高い成長率を示しております。また、9 月にクレジットカードサービスをローンチして以降、AUM の伸びも一段と加速している状況です。次に、当社の決算についてご説明いたします。中期経営計画で掲げている 2027 年 5 月期に EBITDA で 9 億円を達成するという計画達成ストーリー自体に変更はございません。一方で、今期につきましては、事業環境のボラティリティの影響を受け、当初の想定を上回る形で、ダウンサイドケースでの推移を見込んでおります。具体的には、アプリメディア市場全体における DAU の下振れの影響に加え、G ホールディングスにおける主力タイトルのリリース時期を精査したことが、業績に影響しております。これらを踏まえ、当期の営業利益目標については、2 億 5,000 万円へと下方修正いたしました。詳細につきましては、後ほどスライドにてご説明いたします。

次に、ゲームエイトが新規事業として展開している Store and Commerce 事業(以下、SC 事業)についてです。こちらは、「スマホ競争促進法」が昨年 12 月に予定どおり施行されたことを受け、この制度的な追い風を背景に、改めて本格的な事業拡大を目指せる環境が整ってきたと認識しております。

最後に、株主還元についてご説明いたします。今回、業績については下方修正を行っておりますが、事業サイドにおけるキャッシュ・フロー創出力そのものに大きな変化はないと考えております。そのため、期初にお約束していた連結株主資本に対して DOE (株主資本配当率) ベースで 4% の配当については、まずこれを維持する方針といたしました。

さらに、投資先である slice の成長が極めて順調であることを背景に、追加で連結株主資本に対して DOE ベース約 1% 相当の特別配当を実施し、増配を行う計画としております。なお、この特別配当の原資については、投資サイドにおける一部確定したエグジットによるキャッシュ・フローを充当しております。そのため、中長期の成長投資に影響を与えるものではなく、株主還元と成長投資の両立を十分に意識した内容となっております。

以上が、第 2 四半期および上期のハイライトとなります。

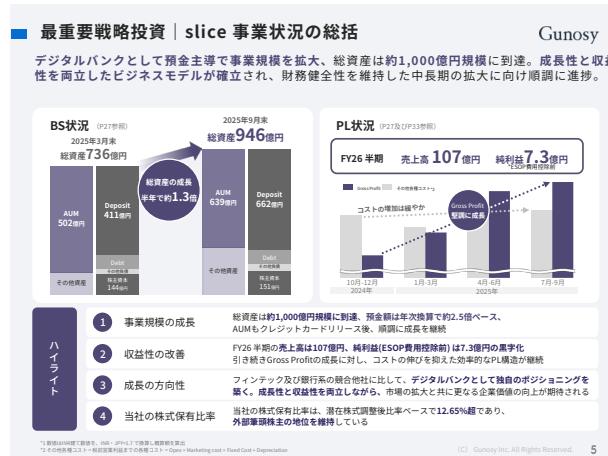
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 GUNOSY | 2026年1月21日(水)

6047 東証プライム市場

決算説明



統いてのスライドでは、当社の最重要投資先である slice の状況について、詳細をご説明いたします。ここで最もお伝えしたい点は、成長性と収益性を両立したデジタルバンクとしてのビジネスモデルが、sliceにおいてすでに確立されたという点です。

スライド上段のグラフに記載しておりますとおり、slice のバランスシートは、総資産ベースで直近半年間に約 1.3 倍へと急成長し、規模としては約 1,000 億円に到達しております。

PLにつきましても、2026 年上半期の売上高は 107 億円となりました。また、純利益ベースでは、先ほどご説明したとおり、ESOP 関連費用控除前ではありますが、7.3 億円の黒字を達成しております。

こうした業績の大幅な改善の要因は極めてシンプルで、事業規模そのものが着実に拡大している点にあります。特に、総資産 1,000 億円規模に到達するまでの成長エンジンとなっているのが預金残高の増加です。預金額は、年率換算で約 2.5 倍という非常に高い成長率を維持しております。

加えて、9 月にローンチしたクレジットカード事業も、AUM の拡大に大きく寄与しており、事業全体として明確な成長軌道に入ったと認識しております。

また、こうした成長は収益性の改善とも連動しており、結果として、半期ベースで 7.3 億円の黒字化を達成するに至りました。粗利についても堅調に推移しておりますが、その背景には、事業成長に対してコストの増加を緩やかに抑制できている点があります。この点は、slice が極めて効率的な損益構造を構築できていることを示していると考えております。

slice は、単なるフィンテック企業でもなく、また伝統的な銀行でもない、両者の強みを融合させたデジタルバンクとして、他社とは一線を画す独自のポジショニングを確立できていると考えております。今後も市場拡大の追い風を受けながら、急成長と高い収益性を両立し、企業価値のさらなる向上を実現できるものと見ております。

なお、これまでに合併や増資を実施しておりますが、これらを踏まえた上でも、当社の潜在株式調整後ベースでの保有比率は 12.65 % を維持しております。引き続き、当社は外部筆頭株主として slice を支援していく方針に変わりはございません。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ 最重要戦略投資 | slice 各主要数値の状況 Gunosy

収益性・流動性・資本健全性のバランスが取れた事業運営を実現。

主要KPIの状況 25年9月時点		
	主要KPI状況	KPI概要と見立て
Deposit (P2T 勘定)	662億円 年次換算ベース 約2.5倍	<ul style="list-style-type: none"> 預金の総額で、資金調達力と事業の安定性を示す指標 貸出成長を十分に支える水準で拡大しており、資金調達面の制約は限定的
AUM (P2T 資産)	639億円 年次換算ベース 約1.4倍	<ul style="list-style-type: none"> 貸出・金融資産の総額で、事業規模と成長性を示す指標 預金の急成長により資金調達面の制約はないか? 財務健全性の観点から資本強化が今後の急務との考え方
純利益 (ESOP費用控除前)	7.3億円(半期)	<ul style="list-style-type: none"> 株式報酬など一時的原因を除いた本業の収益力を示す、利益指標 成長投資を継続しながらも黒字を達成、収益モデルの成立が確認できる段階
LDR (Loan to Deposit Ratio)	約96%	<ul style="list-style-type: none"> 預金と貸出のバランスを示し、資金調達効率と流動性バランスを測る指標 資金運用効率は高く、流動性余地も確保されたバランスの取れた水準
LCR (Liquidity Coverage Ratio)	253%	<ul style="list-style-type: none"> 短期的な資金需要に対する備えを示す、流動性の健全性を測る指標 規制水準を大きく上回っており、短期的な成長・変動への耐性は十分
CAR (Capital Adequacy Ratio)	18.1%	<ul style="list-style-type: none"> リスク資本に対する自己資本の十分性を示し、銀行の財務健全性を測る指標 現状に対しては充足しており、財務バランスは良好

POINT インド市場において、銀行としての主要指標について健全なバランスを保ちながら成長をしている。

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 6

こちらは、slice の現状の数値状況を示したものです。

今回から、これまで以上に詳細な数値開示が可能となりました。主要 KPI についても極めて健全な水準を維持しており、預金残高が貸出残高を上回るペースで着実に積み上がっております。

流動性比率につきましても、規制水準を大きく上回っており、安全性と成長性を両立した運営が実現できていることを示す数値となっております。

■ 最重要戦略投資 | Credit Rating : アウトルックの上方修正 Gunosy

インドを代表する信用格付機関より『BBB-/Positive』の投資適格評価を得た。
銀行としての財務健全性は、外部機関からも認定されている。

Rating Rationale 概要	
	Rating Rationale
Crisol Rating	<ul style="list-style-type: none"> 格付 : Crisol BBB- (据置) アウトルック : Stable → Positive 上方修正

Crisol Rating について

インドを代表する信用格付機関であり、アメリカ大手格付け会社であるS&P Globalのグループ企業。主に銀行・企業・債券などの返済能力や信用力を評価し、格付とアウトルックを付与。その評価は、インド金融市场で広く参照されている。

https://www.crisolrating.com/reviews/ratings/Rating/CreditRating/India/SmallFinanceBankLimited_November%2021_122021_08_30.html

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 7

こちらのスライドでは、財務の健全性が社内評価にとどまらず、外部機関からも高く評価されている点についてご説明しております。

インドを代表する格付機関より、今回アウトルックを『BBB-/Positive』へと上方修正する評価をいただきました。あわせて投資適格級の格付も取得しており、銀行としての信用力が着実に向上していると認識しております。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ 26/5期 通期計画の修正 Gunosy

期初計画については、事業環境のボラティリティの中で、ダウンサイドケースでの推移となる見込み。結果として、当期の営業利益目標を250百万円に下方修正。

	26/5期 当初通期計画	26/5期 下期修正計画	修正額
売上高	7,890	6,450	△1,440
営業利益	780	250	△530
営業利益率	9.9%	3.9%	-
EBITDA	927	401	△526
経常利益	770	360	△410
親会社株主に 帰属する当期純利益	430	134	△296

(百万円)

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 8

こちらは、通期業績の修正に関するご説明です。

当期業績見通しについて、各事業を取り巻く環境のボラティリティを慎重に見極めた結果、当初の想定よりもダウンサイドケースでの推移を見込む判断に至りました。これに伴い、通期業績を全体的に下方修正しております。

修正後の具体的な数値は、売上高 64 億 5,000 万円、営業利益 2 億 5,000 万円、EBITDA 4 億円を見込んでおります。

詳細につきましては、後半パートで各セグメント別にご説明いたしますが、今回の業績修正の主な要因は大きく 2 点ございます。

1 点目は、コアキャッシュ領域における事業環境の変化です。Gunosy をはじめとするアプリメディア市場全体において、当社単体の要因ではなく、市場全体および競合を含めた形で DAU が伸び悩み、事業環境のボラティリティが高まったためです。

2 点目は、今年 5 月に買収した G ホールディングス社に関するものです。将来的な収益機会の最大化を優先する観点から、リリースを予定していた主力タイトルの投入時期について、見直しおよび調整を行ったためです。

■ 26/5期 Q2実績 各ポートフォリオ売上高/営業利益 Gunosy

コアキャッシュ領域は、アクティブユーザー数が軟調推移の市況影響を受ける。
GH社は、将来的な収益最大化に向け、タイトルリリース時期を慎重に見極め中。

	売上高			営業利益		
	26/5期Q2 実績	YoY	26/5期 通期計画 進捗率	26/5期Q2 実績	YoY	26/5期 通期計画 進捗率
コアキャッシュ 領域	2,806	91.6%	46.8%	583	78.5%	40.3%
C/F上位型 M&A領域 (GH社)	465	-	26.4%	△95	-	-
新規オプション領域 (次期を除くSC事業、IR Hub)	8	65.0%	6.1%	△109	-	-
その他調整額 (共通コスト等)	0	-	25.5%	△307	-	-
連結合計	3,279	106.6%	41.6%	70	19.3%	9.1%

(百万円)

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 10

続いて、こちらのスライドでは、ポートフォリオ別の第 2 四半期実績および通期進捗状況についてご説明いたします。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

まず、連結全体の進捗状況です。第2四半期累計の連結売上高は32億7,900万円、営業利益は7,900万円となりました。通期計画に対する進捗率は、売上高が41.0%、営業利益が9.1%となっております。

次に、ポートフォリオ別の内訳をご説明いたします。当社の収益の柱であるコアキャッシュ領域では、売上高28億6,000万円、営業利益5億8,300万円となりました。

ニュースアプリを含むメディア市場全体においてダウンロード数が下振れ傾向にある影響を受け、売上・利益ともに進捗率は40%台前半から後半にとどまっております。当初計画に対しては、ややビハインドする推移となっております。

続いて、キャッシュ・フロー積み上げ型M&A領域であるGホールディングスについてです。売上高は4億6,500万円となった一方、営業利益は9,500万円の赤字となっております。この点については、先ほどご説明したとおり、将来的な収益機会の最大化を見据え、主力タイトルのリリース時期を慎重に見極めたことが主な要因です。

このように、足元ではコアキャッシュ領域における一部市場環境の影響に加え、Gホールディングスにおける新作タイトルのリリース調整が重なった結果、全体の営業利益進捗は抑制された形となっております。しかしながら、これらの状況を踏まえつつ、下期以降は巻き返しを図っていく考えです。

■ 26/5期 グループポートフォリオ毎の戦略とQ2の総括 Gunosy

当期は事業面においてダウンサイドで推移しているが、C/F創出力自体に変化はないとの判断。sliceのアセマネと共にFY27のEBITDA900百万円達成に向けた事業全体の強化を進める。

	26/5期 目標	26/5期Q2 総括
① コアキャッシュ 領域	<ul style="list-style-type: none"> 安定的・予測可能なFCFの継続 コアキャッシュ領域から営業利益⁽¹⁾14億円以上を創出 	<ul style="list-style-type: none"> 事業環境の下振れにより当期は調整局面にあるが、根本的な事業サイトでのC/F創出力は不变と判断 <small>Q3以降の方針</small> 下期のコストコントロールにより利益をさらに創出
② C/F積み上げ型M&A 領域	<ul style="list-style-type: none"> GH社のPMIを成功させ、EBITDA/ の個人控除後の営業利益の拡大を実現 財務リスクのコントロールを前提にさらなるM&Aを推進し資本効率向上を実現 	<ul style="list-style-type: none"> GH社は、将来的な収益最大化に向けて、タイトルリリース時期を慎重に見極め中長期的な方針 GH社は27/5期にかけてグループへの利益貢献を見込む 新規のM&A案件創出に向けた活動も積極的に実施
③ 高成長オプション 領域	<ul style="list-style-type: none"> sliceのインドにおける⁽²⁾先進的な銀行としての高成長の環境をサポート SC事業のアプリ外決済GMV拡大開始 その他新規事業(ex-IR Hub)の中長期的な成長可能性の創造 	<ul style="list-style-type: none"> sliceは約1,000億円に到達、成長性と収益性を両立したビジネスモデルを確立し、中長期の拡大へ順調に進歩 SC事業 IR Hub事業 法令施行を追い風に、先行投資が継続 PMF進展・導入社数は順次拡大

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 11

ここからは、各ポートフォリオにおける戦略、ならびに上期の総括と今後の方針についてご説明いたします。まず、コアキャッシュ領域についてです。第2四半期は、ニュースアプリメディア市場全体の下振れを受け、一時的な調整局面となりました。

一方で、MAU自体については、既存で運営している各メディアにおいて大きな減少傾向は見られておらず、中長期的には回復すると見込んでおります。

また、ゲームエイト事業、とりわけ海外事業が継続的に成長している点を踏まえると、このセグメント全体としてのキャッシュ・フロー創出力そのものに大きな変化はないと判断しております。短期的には一定のボラティリティが続く可能性はあるものの、今回の業績調整を踏まえ、第3四半期以降はコストコントロールを徹底することで、利益の安定化を図っていく方針です。

次に、M&A領域についてご説明いたします。こちらは、主力タイトルのリリース時期が後ろ倒しとなった影響により、今期ではなく2027年5月期にかけて業績貢献がずれ込む形となっております。そのため、収益成長が失われたわけではなく、成長のタイミングが後倒しになったものと捉えております。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

加えて、G ホールディングスに限らず、新規 M&A の創出に向けた取り組みも引き続き積極的に進めております。これらの案件が実行に至った場合、EBITDA の大幅な向上が期待できると考えております。

最後に、高成長オプション領域についてご説明いたします。こちらは中長期的な事業拡大に向けて順調に進捗しております。

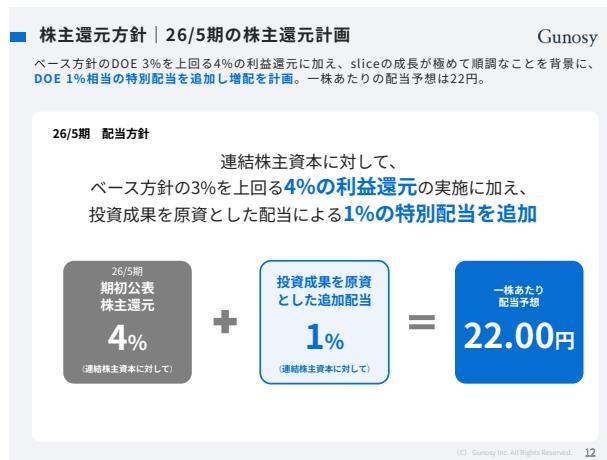
投資先である slice については、先ほどご説明したとおり、総資産が 1,000 億円規模に到達し、成長性と収益性の両輪が着実に回っている状況です。

また、SC 事業につきましても、新法案の施行を追い風に、下期以降の事業拡大を目指しております。現時点では赤字事業ではありますが、今後は赤字幅の縮小に加え、段階的な利益貢献が見込めると考えております。



今回、通期業績予想の下方修正は行っておりますが、ここで改めて強調したい点があります。

それは、中期経営計画で掲げている 2027 年 5 月期に EBITDA 9 億円を達成するというストーリー自体には、何ら変更がないという点です。この中期経営計画における達成水準である EBITDA 9 億円は、あくまで下限値として維持した上で、それを上回る水準を目指していく方針です。



重要なポイントである配当方針についてご説明いたします。結論から申し上げますと、期初に設定していた 1 株あたり 18.3 円から、22 円への増配を計画しております。

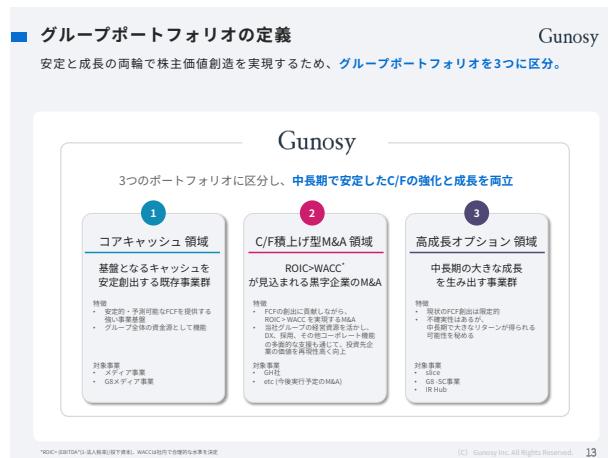
株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

今回、下期業績の見直しは行いましたが、事業から生み出されるキャッシュ・フロー創出力自体には大きな変化はないと判断しております。そのため、期初にお約束していた DOE4% の配当ベースは、しっかりと維持いたします。

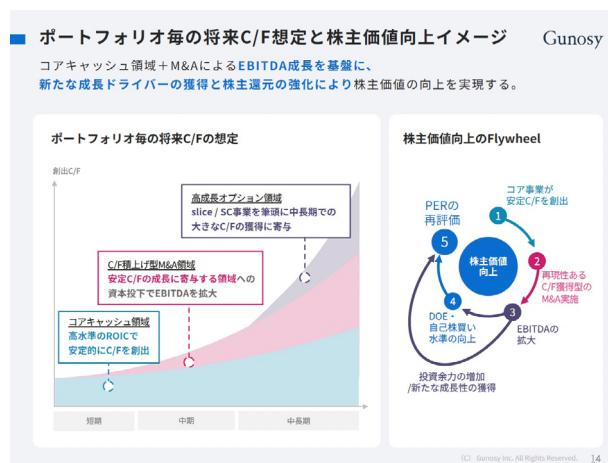
加えて、投資先である slice の成長性が極めて順調であることを踏まえ、DOE で 1% 相当の特別配当を追加し、増配を実施する方針です。この上乗せ分の原資については、投資先の一部 EXIT によるキャッシュ・フローを活用しており、中長期の成長投資に影響を与えるものではありません。したがって、成長と株主還元の両立が可能な内容となっております。

結果として、DOE 換算で 5% 相当、1 株あたり 22 円の配当とする計画です。



ここからは、改めて当社グループのポートフォリオの定義についてご説明いたします。

スライドにある通り、コアキャッシュ領域、キャッシュ・フロー積み上げ型 M&A 領域、高成長オプション領域、これら 3 つのポートフォリオに分類し、戦略的に運営しております。



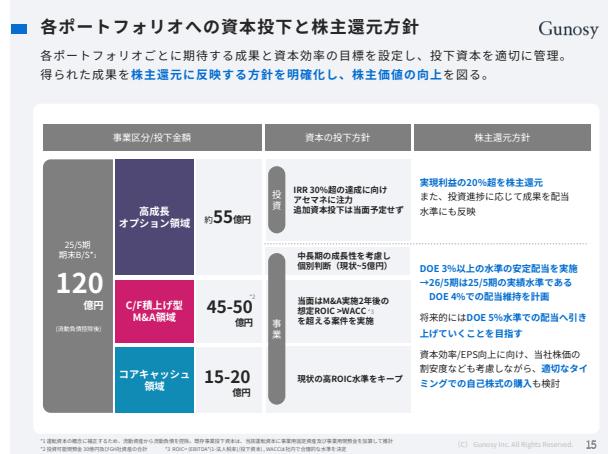
3 つのポートフォリオがどのように企業価値向上につながるのかを示した全体像です。簡単に申し上げますと、コア事業で生み出した安定的なキャッシュを、M&A や高成長オプション領域に再投資し、将来的なキャッシュ・フローを着実に育てていくという循環を回すことで、中長期的な株主価値の最大化を目指しております。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明



次に、資本分配と株主還元の考え方についてご説明いたします。

当社は、バランスシート全体で約 120 億円の資産を保有しており、先ほどご紹介した 3 つのポートフォリオに戦略的に振り分けて運用しております。特に、高成長オプション領域に含まれる投資事業、主に slice には重点的に投資を行っており、実現利益の 20% をベースとして、これを上回る利益は株主還元に回す方針です。その他の事業については、基本的に DOE ベースで還元を行い、最低ラインとして 3% を設定しています。前期および今期は、DOE 4% をベース配当としております。今回の特別配当を加味すると、DOE 換算で 5% まで引き上げる計画です。最終的には、安定的にキャッシュ・フローを積み上げた上で、定常的に DOE 5% を継続的に還元できる体制を整えてまいります。

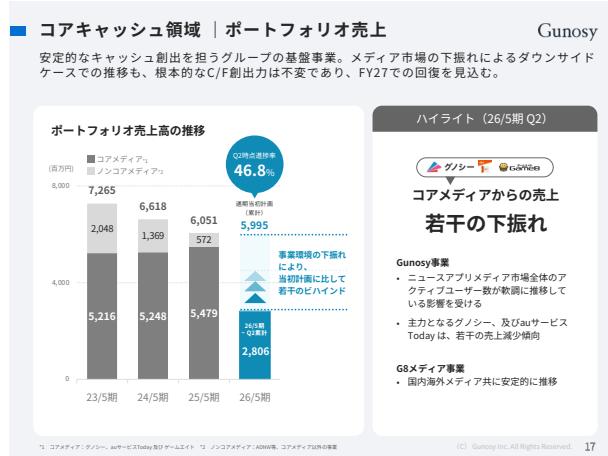


ここからは、ポートフォリオ別の詳細についてご説明いたします。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)

6047 東証プライム市場

決算説明

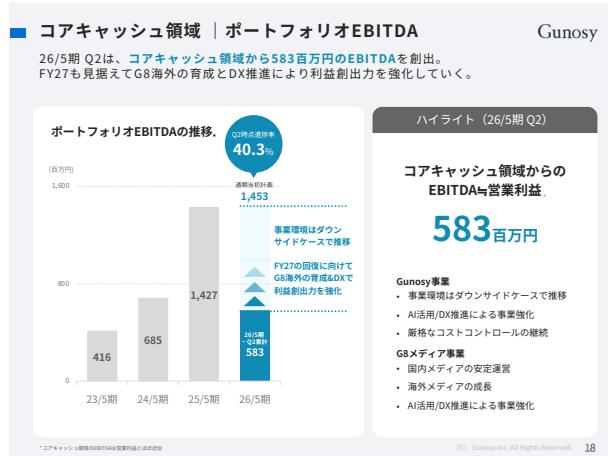


まずは、コアキャッシュ領域の売上についてです。

左側のグラフは売上の推移を示しており、第2四半期までの累計売上高は28億600万円となっております。期初計画に対する進捗率は46.8%であり、事業環境の下振れの影響により若干の遅れが生じております。

主な要因は右下のハイライトに示した通りで、当該セグメントに含まれるアプリメディア市場全体のDAU下振れの影響を受け、主力サービスである「グノシー」および協業事業である「auサービスToday」の売上がやや減少傾向にあります。

一方で、ゲームエイトのメディア事業については、国内・海外ともに安定した成長を維持しており、ポートフォリオ全体の売上を下支えしております。



次に、利益面、すなわちEBITDAの推移をご覧ください。

このセグメントは減価償却費が少ないため、ほぼ営業利益に相当します。第2四半期における累計EBITDAは5億8300万円となり、進捗率は40%です。売上同様、事業環境のダウンサイドの影響を受け、計画に対して遅れが生じております。

この状況に対応するため、グノシー事業では、厳格なコストコントロールを継続するとともに、AI活用やDX推進による事業体制の強化を進めてまいります。ゲームエイト事業についても、国内メディアの安定運営に加え、成長余地の大きい海外メディアへの投資・DX化を強化していく方針です。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

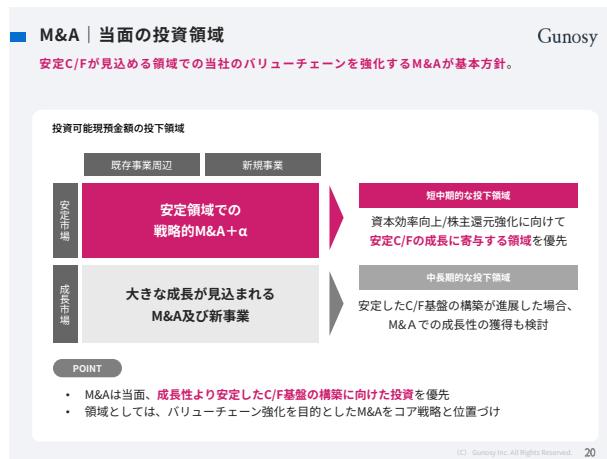
株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

足元では進捗に忍耐が必要な局面もありますが、これらの施策を着実に実行することで、利益創出力をさらに高め、2027年に向けた回復力を確実に示してまいります。



次に、キャッシュ・フロー積み上げ型のM&A領域についてご説明いたします。



基本方針は前回から変更はなく、当社はホームランを狙いに行く過度なリスクテイクは行わず、安定的なキャッシュ・フローが見込める領域で、当社のバリューチェーンを強化できる案件に注力してまいります。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

M&A | 財務ガイドライン

Gunosy

M&A推進にあたり、過度なリスクテイクの防止に向けた財務ガイドラインを設定。
当該ガイドラインを遵守し、資本効率の向上と財務安定性を両立したM&Aを実行する。

財務リスクに関するガイドライン	
C/F横上げ型 M&A領域	<p>(1) 投資可能枠の設定 中計期間の残り2年間での最大の投資額は、現在保有する余剰キャッシュの範囲内（現状30億円）に制限 *既に実施済みのM&Aへの投資額（11億円）は除く *借入による投出は除く</p> <p>(2) 案件の収益性 当面はM&A実施2年後の想定ROIC > WACCを超える案件を実施 *想定ROIC = (EBITDA * L-法人税率) / 投下資本 *WACCは社内で合理的な水準を決定</p> <p>(3) 財務レバレッジ制限 原則、連結ベースでのNet Debt/EBITDAは3倍以内に制限 2倍を超える場合には財務健全性を十分に確認のうえ判断</p>
POINT	<ul style="list-style-type: none"> グループのEBITDA増加に直結する案件を優先する 過度に財務リスクを取らないよう明確なガイドラインを設け、資本効率向上と財務安定性の確保を両立する

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 21

こちらには、M&A 実行にあたってのガイドラインを示しております。手元の余剰資金である 30 億円の範囲内で投資を行い、案件の収益性については、2 年後の ROIC が WACC を上回ることを目安としております。このように、財務健全性を維持しつつ、規律ある投資を通じて着実な成長を目指してまいります。

Gホールディングス(GH社)の状況 | 実績と評価ポイント

Gunosy

安定的なキャッシュ・フローと高い資本効率を実現する再現性あるビジネスモデルを高く評価。
M&Aにより、グループ全体の安定C/F創出と成長分野（アニメ・漫画IP領域）への参入を実現。

取得概要とビジネスモデル

25年5月 取得
事業内容
スマートフォン向けのゲームの企画・プロデュース

投資方針との整合性

- 「安定収益が見込める領域において当社のバリューチェーンを強化」というIRで掲げたM&A方針に沿った第1号案件

グループジョインによる期待効果

- 日本のアニメ・漫画IPの海外需要拡大を捉え、日本発のグローバル展開を見据えた戦略的意義のある成長分野への参入の契機
- SC事業との連携によるアブリ外決済ソリューションをはじめ、ゲームエイトとのシナジー創出が期待できる

POINT

- 複数の有名IPタイトルでの企画・運営等の実績を有し、再現性のある形で付加価値を創出
- リスク・リターンを精緻にコントロールすることにより、安定的なキャッシュ・フローと高い資本効率を実現

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 22

次に、今年 5 月に買収した G ホールディングスについてご説明いたします。

同社のビジネスモデルの特徴は、スマートフォンゲームをプロデュースする企業でありながら、自社で開発リスクを追うのではなく、有力な IP（知的財産）をライセンス契約により借り受け、適切なデベロッパーと連携して展開する点にあります。

実績としても、自社でリリースした作品や、再ライセンスによるサブライセンス型で展開する作品において、「進撃の巨人」など誰もが知る有名 IP を活用し、数百万ダウンロード規模の実績を上げております。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

Gホールディングス(GH社) | 進捗サマリー Gunosy

将来的な収益最大化に向け、タイトルリリース時期を慎重に見極めて進捗中。
各タイトルの開発は順調に進捗も、利益貢献は来年度以降を見込む。

今後のリリース予定(公開済みタイトル)

2026年リリース予定

サプライヤンス型
碧虫ペダル レザンス・ペダイスム
©吉井良輔 / 桃源庵 / 吉井良輔キャラビオジン / 碧虫ペダル LLC
G-C Holdings Co., Ltd. GCG Co., Ltd.

2026年リリース予定予定

サプライヤンス型
桃源暗鬼 Crimson Inferno
©吉井良輔 / 桃源庵 / 吉井良輔キャラビオジン / 桃源暗鬼 LLC
G-C Holdings Co., Ltd. GCG Co., Ltd.

POINT

- Q1-Q2は新規リリースタイトルへの広告宣伝費の先行投資も影響し、
営業利益は赤字で着地
- 将来的な収益最大化に向け、
タイトルリリース時期を慎重に見
極めて進捗

各タイトルの開発は進行も、
利益貢献は来年度以降が中心

十 更に1~2タイトルの新作展開

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 23

次に、M&A 領域の戦略的意義についてご説明いたします。

当社の方針は、安定的な収益が見込める領域でバリューチェーンを強化することですが、これに沿って進められた案件となっております。グループ入りにより、SC 事業との連携も可能となり、ゲームエイト事業でのシナジーも着実に生まれつつあります。

今後のリリース予定については、既に 2 作品が予定されており、その他 1 ~ 2 作品も控えている状況です。当初は、これらの作品が今期中にヒットすることを前提として計画しておりましたが、利益の最大化や収益の最適化を優先した結果、来期へのずれ込みの可能性を考慮し、今回の業績修正の要因となっております。加えて、新規リリースタイトルに関する広告宣伝費等が今期に計上されていることもあり、総合的に見て G ホールディングスの業績がやや弱く見える構図になっております。

Gunosy

2

Business Overview by portfolio

ポートフォリオ別の概要

コアキャッシュ領域 C/F積上げ型M&A領域 高成長オプション領域

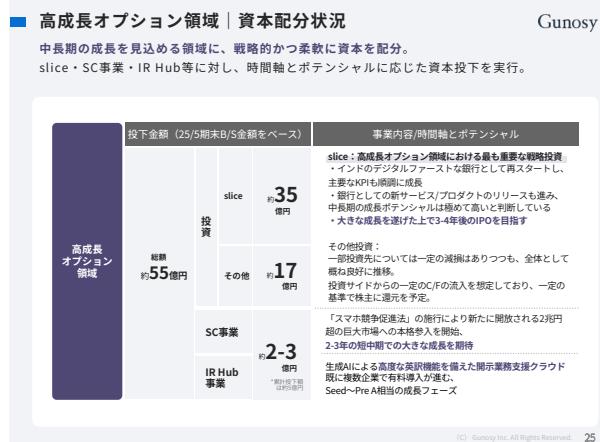
(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 24

ここからは、高成長オプション領域についてご説明いたします。

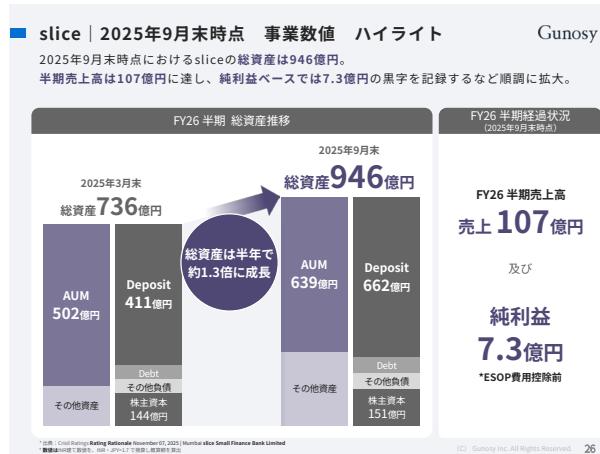
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明



当該領域には全体で約 55 億円の資本を配分しており、特に投資先である slice には 35 億円を投資しております。最も重要な成長フェーズにあると位置付けています。



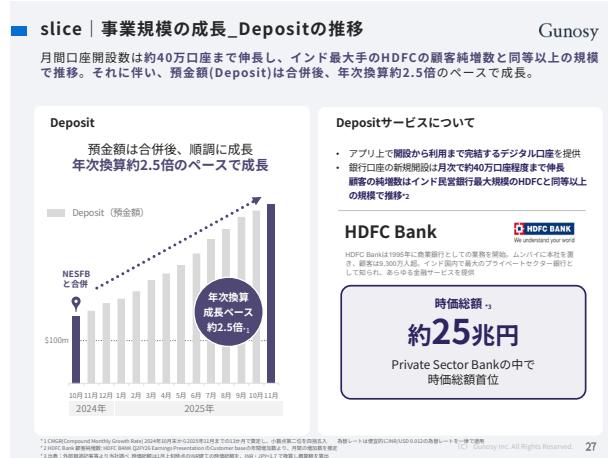
slice は急成長しており、完全にデジタルバンクとして軌道に乗った状況です。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

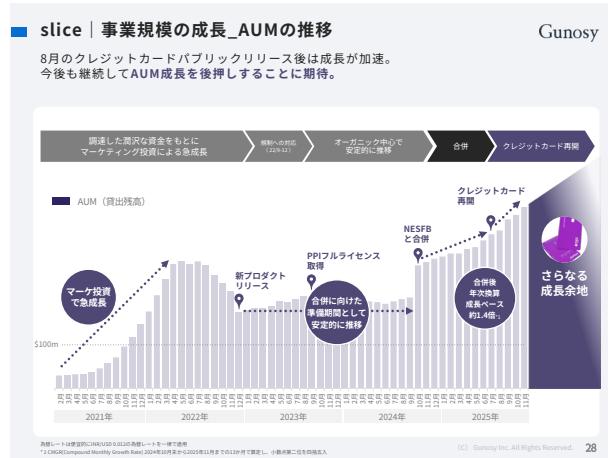
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明



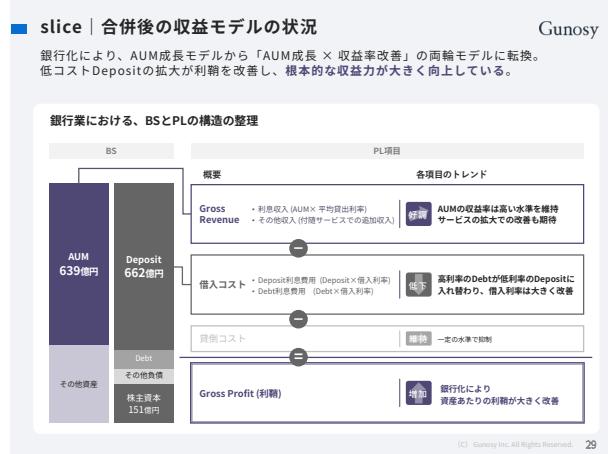
この成長を支えているのは預金の伸びであり、月間の口座開設数は約40万件に達しており、これはインド最大手銀行の純増数に匹敵する規模、あるいはそれ以上の水準です。結果として、預金額は年次換算で2.5倍という非常に高い成長率を示しています。



クレジットカードのリリース以降も順調に推移しており、豊富な資金ベースを活かしたさらなるAUMの成長が期待できる状況です。

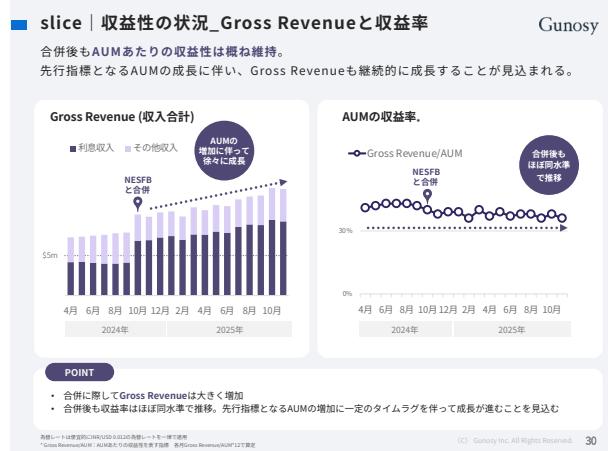
株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明



続いて、銀行化に伴う収益構造の変化についてです。

slice はもともとノンバンクとして外部からの借入で運営していましたが、銀行化により預金資金を活用できるようになりました。これにより、高コストの外部借入が低コストの預金に置き換わり、資金コストが大幅に低下しています。その結果、収益性（リザヤ）が劇的に改善されるモデルとなっております。



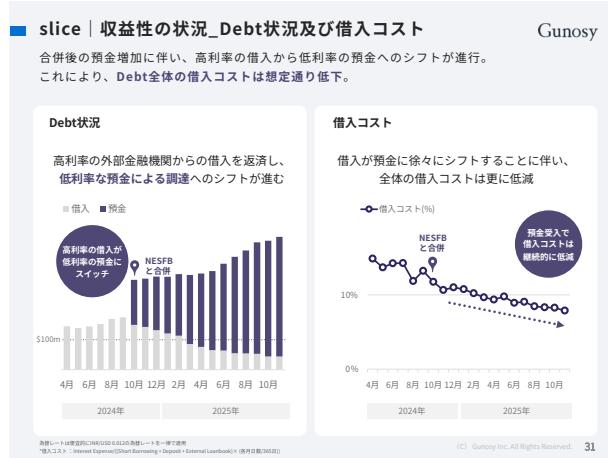
まず、トップラインの状況についてです。合併後の AUM に対する収益率は引き続き高水準を維持しており、資産の積み上げがそのまま収益増につながる構造となっています。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

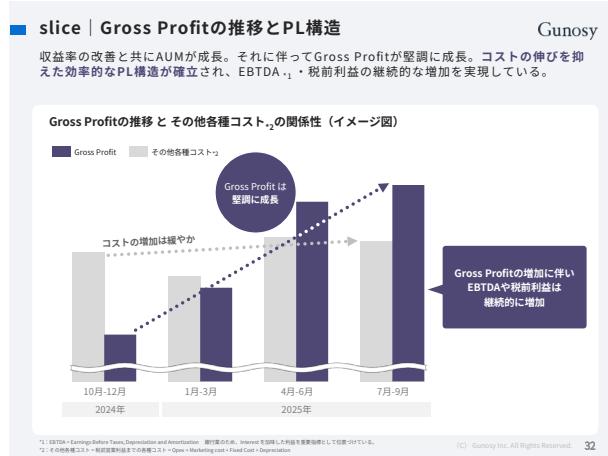
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明



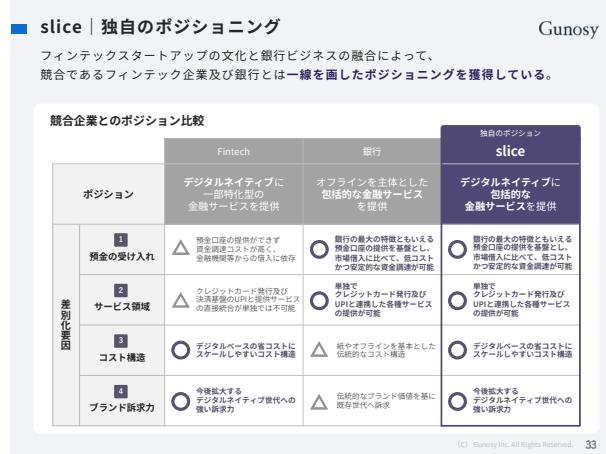
次に、調達コストの推移をご覧ください。グラフの通り、これまで外部借入で貯っていた資金を預金に置き換えることで、全体の調達コストは継続的に低下しています。これは、銀行免許を持つことによる大きな強みの一つであると考えています。



結果として、売上総利益は右肩上がりで成長しており、一方でコストは緩やかな増加にとどまっています。売上が増加すれば増加するほど利益が残る、非常に効率的なPL構造が実現できています。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明



さらに、この効率的な PL 構造の背景として、slice は単なるフィンテック企業でも伝統的銀行でもなく、両者の良いところを併せ持つデジタルバンクとしての独自ポジションにあります。特に、デジタルネイティブへのリーチ力と銀行としての資金調達力を兼ね備えており、これが競争優位性の源泉となっています。



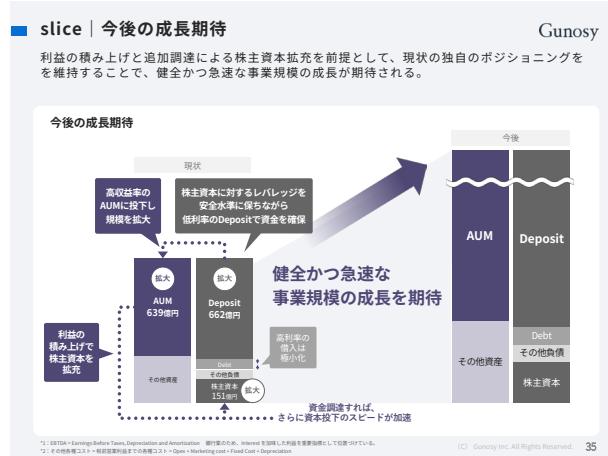
ここで、slice の競争優位性について具体的な数字でも確認できます。

顧客体験とブランド力により低成本で預金を集め、それをデジタル基盤で効率的に運営することで、運営コストを抑えています。この両輪の取り組みが、高い収益性と成長を支えているのです。一般的な銀行であれば、規模拡大の際に支店運営など固定費が増加しますが、slice はデジタルバンクとして運営しているため、その分のコストが抑えられることが大きな特徴です。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)

6047 東証プライム市場

決算説明



今後の展望としては、利益の積み上げにより自己資本を厚くし、それをテコに預金をさらに集め、貸し出しを増やすという健全な循環が回っています。このサイクルを通じて、今後も資産規模と収益の拡大が見込まれます。加えて、必要に応じて外部資金を調達することで、さらなる成長を実現できる素地も整っています。



最後に、当社の保有比率についてです。冒頭でもご紹介しました通り、sliceに対する当社の潜在株式調整後の保有比率は12.65%であり、引き続き外部筆頭株主として、その成長の果実を最大限享受する体制が整っています。

株式会社 Gunosy | 2026 年 1 月 21 日 (水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ ゲームエイト | SC事業のポテンシャル Gunosy

ゲームメディアと決済事業を自社で運営し、顧客体験を損なわないシームレスな連携が可能。
国内でも稀有なポジショニングを保持しており、今後の決済事業拡大のポテンシャルに期待。

ユーザーの集客力 (ゲーム情報サイト)

- 過去にはトラフィック数で国内首位を記録(25/5期 Q2報告)
- ゲームメディアとして有数の集客力を誇る

ユーザーの送客力 (決済機能)

事業1 S8 Shops 決済 #3 & 4

アフリゲート決済サイトをワンストップで構築・運用するサービス

事業2 Game8 Store 決済 #5

「Game8」内で、ゲーム内アイテムやゲームダウンロードなどを販売できるローカルサービス

POINT ユーザー集客力と送客力を合わせ持ち、顧客体験を損なわないシームレスな連携を実現可能な、国内でも稀有なポジショニングを保持

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 38

ここから、新規事業である高成長オプション領域の取り組みについてです。具体的には SC 事業となります。この事業は、元々 1.2 兆円規模のスマホゲーム決済領域をターゲットとしており、これまで海外の大手 2 社によりほぼ独占されてきました。しかし、昨年の法改正により、第三者が決済市場に参入できる環境が整いました。この追い風を受け、当社はソニーペイメントサービス社との合弁会社を通じて本格参入しています。ゲーム 8 は国内最大級のゲームユーザー基盤を持ち、月間約 3,000 万ユニークユーザーがサイトを訪れます。攻略サイトに訪れるユーザーは、課金意欲が高い層であり、この層を対象にサービスを提供することで、収益性の高い市場にアクセスできます。

具体的なポテンシャルとして、これまで海外の Big Tech が独占していた市場（1.2 兆円規模、ティクレート 30% で約 3,600 億円の市場）において、仮に当社が手数料率を半分に設定して参入した場合でも、1 ~ 2% のユーザーを動かすだけで 18 億～ 32 億円規模の粗利を生み出すことが可能です。

今後は、「Game8」内でユーザーがシームレスに決済できる環境を構築し、ゲーム会社の収益向上に貢献するとともに、ユーザーに対してもより便利で価値の高い体験を提供していきます。

株式会社 GUNOSY | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ ゲームエイト | SC事業 事業環境の変化

GUNOSY

「スマホ競争促進法」が12月に正式に施行。G8の強みであるゲーム外でのユーザー集客力と送客力の重要性は一層増した状況にあると考えています。

スマホ競争促進法施行後の決済手段 ¹			
#	対象ユーザー	決済方法	決済手数料
①	ゲーム中のユーザー	プラットフォーム決済	高
②		アプリ内の代替決済	
③	ゲーム外のユーザー	自社ECへの送客からアプリ外決済	
④		自社ECへの送客からのアプリ外決済	低
⑤		外部サービスでの決済	中

¹ 2026年12月1日時点の情報を基づいて作成。

スマホ競争促進法の施行による環境の変化

(1) 法規制の概要

- 2026年12月18日に施行
- プラットフォーマーに対し、アプリ外決済や外部リンク等柔軟な決済方法の容認を義務づけることで競争促進を図る制度

(2) 各プラットフォーマーの対応とパブリッシャーの選択肢

- プラットフォーマーは規定を改正し、手数料体系を変更
- ゲーム内での代替決済や外部リンクへの送客は許容されるも、決済手数料が嵩むとする見込み
- ゲーム外のユーザーに対して、ゲーム外のアイテムの決済を促すソリューションについては決済手数料を比較的安価に抑えることができる見込み

法施行及びパブリッシャーの規制対応により
ゲーム外のユーザー集客力と送客力
は一層重要なファクターとなる状況

(C) GUNOSY Inc. All Rights Reserved. 37

今回のSC事業参入の前提となる「スマホ競争促進法」についてですが、昨年12月18日に予定通り施行されました。内容を確認し、各社の利用規約もオープンになった結果、当社にとって非常に有利な環境が整っていることが分かりました。

具体的には、ゲームパブリッシャーが外部決済を利用することをBigTechに認められる一方で、ゲームアプリ内から外部決済に誘導する場合には、ゲームパブリッシャーはプラットフォーマーへの追加費用が発生することが明示されています。これにより、手数料削減の効果を狙った外部誘導が従来よりも制約を受ける可能性があります。

しかし当社は、国内ナンバーワン規模のトラフィックメディアを保有しており、このメディア経由でゲームアプリに送客する場合には、追加費用が発生しないという構図になっています。つまり、課金意欲の高いユーザーを追加コストなしでゲームアプリに誘導できる点が、当社の強みです。

この追い風を背景に、これまで大手ゲームパブリッシャーは手数料最小化の観点から自社決済の開発を優先していましたが、今後は当社のようにメディアを活用した送客を組み込んだ提案が受け入れられやすくなると考えています。今後は、この優位性を活かして、SC事業の導入数拡大に注力してまいります。

■ 新規事業 | IR Hub 進捗状況

GUNOSY

「顧客課題 → プロダクト改善 → 提案」が回り続けるプロダクト主導の成長構造を確立。
機能拡張が利用価値を高め続けており、再現性のある利用企業数の拡大が進んでいる。

自動レイアウト調整機能のリリースについて

新機能

決算説明資料の英訳を自動で
レイアウト調整

IR Hub

背景
2025年4月のプライム市場英文
表示義務化による業務負荷増に
対応

課題
英語翻訳時に発生する文字数増
加によるレイアウト崩れを解消

効果
パワーポイント資料の修正工数
を劇的に削減

IR Hub導入先企業（一部）

Cross Marketing Group coconala UNITED HowTelevision BUYSELL gumi DIGITAL liberware エアトリ VKE L&S

(C) GUNOSY Inc. All Rights Reserved. 39

次に、IR Hub事業についてご説明いたします。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

SC事業と比べるとフェーズはまだシード段階に近いものの、順調に進捗しています。東証プライム市場を中心に、決算開示の英文化ニーズを捉えることができており、導入企業数も着実に拡大しています。導入に伴い、顧客企業が抱える課題の深掘りも進んでおり、プロダクト改善が順調に進んでいる状況です。今後も、上場企業に特化したソリューションとして、じっくりと育成を進めてまいります。

The slide features the Gunosy logo at the top right. In the center, a large blue number '3' is displayed. Below it, the text 'FY26 Business forecast and Mid-term Financial Policy' is written in small blue font. Underneath that, the title '26/5期通期計画および中期財務目標について' is shown in bold black font. At the bottom right, there is a small note '(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved 41'.

続いて、中期計画における業績目標についてです。

The slide has the Gunosy logo at the top right. A blue header bar contains the text '26/5期 通期計画の修正 (再掲)' on the left and '(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved 42' on the right. Below the header, a note states: '期初計画については、事業環境のボラティリティの中で、ダウンサイドケースでの推移となる見込み。結果として、当期の営業利益目標を250百万円に下方修正。' A table follows, showing the comparison between initial and revised financial targets for the fiscal year. The table includes columns for '26/5期 当初通期計画' (Initial Full-year Forecast), '26/5期 下期修正計画' (Revised Second-half Forecast), and '修正額' (Correction Amount). The table shows a significant downward revision for most metrics, particularly operating income.

	26/5期 当初通期計画	26/5期 下期修正計画	修正額
売上高	7,890	6,450	△1,440
営業利益	780	250	△530
営業利益率	9.9%	3.9%	-
EBITDA	927	401	△526
経常利益	770	360	△410
親会社株主に帰属する当期純利益	430	134	△296

冒頭でご説明した通り、ボラティリティを考慮し、営業利益は2.5億円、EBITDAは4億円にそれぞれ下方修正しております。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ 26/5期 通期計画の修正 各ポートフォリオ詳細 Gunosy

コアキャッシュ領域のC/F創出力は不变と判断しているが、当期はダウンサイドケースで推移。GH社は新規リリースタイトルへの先行投資フェーズとなり、営業利益は赤字着地を見込む。

26/5期 通期計画の修正 ポートフォリオ別詳細

	売上高			営業利益			EBITDA		
	26/5期 当期実績 計画	26/5期 下期修正 計画	修正額	26/5期 当期実績 計画	26/5期 下期修正 計画	修正額	26/5期 当期実績 計画	26/5期 下期修正 計画	修正額
コアキャッシュ 領域	5,995	5,540	△455	1,449	1,191	△258	1,453	1,194	△259
C/F積上げ型 M&A領域 (GH社)	1,766	874	△892	69	△155	△224	213	△7	△220
高成長オプション 領域 (投資を除く SC事業/IR Hub)	131	35	△96	△154	△200	△46	△154	△200	△46
その他調整額 (会員コスト等)	△3	0	2	△584	△586	△2	△584	△586	△2
連結合計	7,890	6,450	△1,440	780	250	△530	927	401	△526

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 43

詳細の内訳を見ますと、下方修正の影響は主にコアキャッシュ領域とGホールディングスで半々程度、各々約2億円ずつとなっています。

Gホールディングスについては、ゲームタイトルのリリースが来期へ移動したことが理由であり、むしろ来期の業績にはプラスの影響が集中する見込みです。

新規事業については数値面での進捗は想定よりゆっくりではありますか、先ほどご説明した法案施行に伴う追い風により、現時点で大きな追加投資を行わなくても、基本的には赤字を縮小しつつ利益貢献につなげられると考えております。

■ 中期の財務目標ガイダンス：27/5期 時点 Gunosy

27/5期 EBITDAの達成ストーリーは不变

各種外部要因も重なり、当年度での中期財務目標の早期達成は困難な状況
ただし、従来の達成目標である27/5期においては、
既存の目標水準を「下限値」として維持し、更なる利益上振れを目指す方針

中期の財務目標：27/5期 時点

事業サイド	投資サイド
EBITDA 900百万円	ROIC (既存事業投下資本に対する) 15%以上
	IRR 30%

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 44

再度登場するスライドですが、これまでの状況を踏まえると、中期経営計画で掲げていたEBITDA 9億円の目標達成ストーリーは変わっていません。国内事業ではさらなるコスト効率化を進め、GホールディングスやSC事業の収益化も加味すると、十分に達成可能と考えています。

また、タイミングは未確定ですが、新規M&A案件も順調に実行できれば、さらに上振れの可能性も見込めます。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ 株主還元方針

Gunosy

業績見通しやsliceの成長期待を踏まえ、安定的な株主還元と事業成長を両立できると判断。
DOE 3%以上の安定配当をベースに、将来的には**DOE 5%**の達成を目指す。

株主還元変更の背景 (2025/3) <p>以下の2点から 安定的な株主還元と事業成長を両立できると判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 既存事業の業績見通し Gunosy単体での黒字化、ゲームエイト事業の継続的な成長により、連結ベースで安定的な利益創出の確度が向上 ② 投資先であるsliceの成長 sliceがインド初のフィンテックバンクへ発展 今後の成長可能性が大きく高まった <p>POINT</p> <ul style="list-style-type: none"> • DOE(株主資本配当率)は、年間配当額/連結株主資本で算定 • 既存事業の利益創出力は一定の成長投資とDOE 3%以上を安定的に配当できる状態にあると判断 • 投資可能現預金を安定したCFを生むM&Aなどを華麗に有望な投資機会に振り向く、将来的にはDOE 5%の配当を維持できる利益水準の達成を目指す 	株主還元の方針の変更 <p>安定的な利益創出が見込まれた時点での配当開始 投資サイドの実現利益の20%の株主還元</p> <p>從来方針</p> <p>変遷方針</p> <p>ベース方針 DOE 3%以上の安定配当。 及び投資サイドの実現利益の20%の株主還元 + 事業状況を総合的に鑑みた自己株式取得 ↓ 将来的な目標 DOE 5%の達成。</p>
---	---

*DOE 5%を超過する場合、自己株式取得の一時的特別配当などの形で実行することを予想

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 45

次に株主還元の方針です。基本方針としてDOEは3%を目標としており、投資事業については実現利益の20%を還元します。必要に応じて自己株買いも活用しながら、事業ポートフォリオの成長や買収による厚みを加え、最終的には安定的な株主還元を目指すという内容です。

今回は利益の修正はございましたが、根本的には今後も安定的にキャッシュ・フローを生み出せる自信に変わりはありません。そのため、事業側の基本配当は従来通り4%を維持いたします。さらに、今期は特別配当1%を上乗せし、合計で5%の株主還元を実施いたします。

■ 株主還元方針 | 26/5期の株主還元計画 (再掲)

Gunosy

ベース方針のDOE 3%を上回る4%の利益還元に加え、sliceの成長が極めて順調なことを背景に、
DOE 1%相当の特別配当を追加し増配を計画。一株あたりの配当予想は22円。

26/5期 配当方針 <p>連結株主資本に対して、 ベース方針の3%を上回る4%の利益還元の実施に加え、 投資成果を原資とした配当による1%の特別配当を追加</p>	<p>26/5期 期初公表 株主還元 4% (連結株主資本に対して)</p> <p>+</p> <p>投資成果を原資 とした追加配当 1% (連結株主資本に対して)</p> <p>=</p> <p>一株あたり 配当予想 22.00円</p>
---	---

(連結株主資本に対して)

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 46

具体的には、配当予想は22円となります。

株式会社 Gunosy | 2026年1月21日(水)
6047 東証プライム市場

決算説明

■ プライム市場残留への取り組み

Gunosy

流通株式時価総額の達成に向けて、業績向上と株主還元の強化を強く推進していく。
並行して、セーフティネットとしてのスタンダード市場への移行準備は問題なく進捗中。

基準日(2025年5月)時点 適合状況			
	プライム市場上場維持基準	当社の状況	適合状況
株主数	800人以上	6,627人	適合
流通株式数	20,000単位以上	141,649単位	適合
流通株式時価総額	100億円以上	84.87億円	不適合
流通株式比率	35%以上	58.4%	適合

改善への取り組み

① 業績向上等

- 中期計画の達成に向け領域毎の目標を着実に達成し、**グループとして増収増益基調を確立**
- コアキャッシュ領域+M&AによるEBITDAの拡大と共に、SC事業を中心とした新規事業の開拓により成長ドライバーを創造
- sliceの成長オプションシャルに関する適切な市場理解形態に向けて、IRの充実に努める

② 株主還元の強化

- DOE 3%以上の水準の利益を維持し、将来的にはDOE 5%水準まで、配当を引き上げられる利益水準への到達
- 投資サイドは実現利益の20%超を**株主還元**。投資連携に応じて成果を配当水準にも反映
- 自己株式取得も適切に組み合わせることで、**資本効率/EPSの向上**も同時に推進

POINT

- 並行して、セーフティネットとしてのスタンダード市場への移行準備は問題なく進捗中

(C) Gunosy Inc. All Rights Reserved. 47

最後に、プライム市場残留についてご説明いたします。現時点では流通株式時価総額のみが未達となっております。これを解消し、達成するために、業績向上や株主還元の強化を進めるとともに、slice の価値や成長ポテンシャルを適切にお伝えできるよう、IR活動の充実に取り組み、株価向上に全力を尽くしてまいります。
並行して、セーフティネットとしてのスタンダード市場への移行準備も進めており、こちらは順調に進捗しておりますので、ご安心ください。

これをもちまして、本日のプレゼンテーションは終了となります。今期の短期的な業績については下方修正となりましたが、繰り返しになりますが、2027年の利益創出ポテンシャル自体には変わりがないと考えております。

また、sliceはインドのデジタルバンクとして飛躍的に成長しており、これは我々にとって大きなプラス要素です。新規事業についても追い風を受けており、この成長機会を着実に捉えながら、株主の皆様への還元と事業規模の拡大を同時に実現してまいります。

ご清聴ありがとうございました。引き続きご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

▲司会者

それでは、以上をもちまして株式会社 Gunosy 2026年5月期第2四半期決算説明会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものではありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443 (IRコンサルティング事業本部)

メールアドレス：support@fisco.co.jp